

(様式1)

令和5年度 学校評価結果報告書(特別支援学校用)

(1) 学校教育目標	生徒がそれぞれのニーズに応じて自立し、主体的に社会参加することができるよう、生徒一人一人を理解し、必要な知識、技能等を培うとともに、豊かな心と健やかな体をはぐむ。	学校整理番号	特9
(2) 現状と課題	肢体不自由、重度重複障害、知的障害のある生徒が在籍しており、それぞれに対応する教育部を設けて指導している。障害の重度・重複化や生徒の教育的ニーズ及び進路希望等が多様化している中、卒業後、生徒が地域社会で活動できる力を身に付けるようにすることが課題となっている。	学校名	青森県立青森第一高等養護学校
(3) 重点目標	1 主体性を引き出す授業の充実 2 キャリア教育の推進 3 教育活動の質の向上	対象障害種別	視覚・聴覚 知的・ <b>肢体</b> ・病弱
(4) 結果の公表	学校評価結果を保護者に配布するとともに、学校ホームページに掲載する。	自己評価実施日	令和 6年 1月 18日(木)
		学校関係者評価実施日	令和 6年 1月 31日(水)
		(9) -イ 学校関係者評価委員会の構成	
		学校運営協議会委員(校長を除く9名)	
		地域住民・地域公共施設館長	4名
		障害者支援機関	1名
		障害者就労支援機関関係者	1名
		教育関係者(元職員)	1名
		保護者(PTA会長、元PTA会長)	2名

番号	(5) 評価項目	自 己 評 価			学校関係者評価	
		(6) 具体的方策	(7) 具体的方策による目標の達成状況	(8) 目標の達成度	(9) -ア 学校関係者からの意見・要望・評価等	(10) 次年度への課題と改善策
1	・ 振り返りを大切にした授業 ・ ICTを活用した授業づくり ・ 教職員間の連携	・ ねらいを明確にし、振り返りを大切にした授業づくり ・ G I G Aスクール対応の端末を活用した授業づくり ・ 目標を共有化した教職員の協働	・ 振り返りを重視した授業づくりを行い、その方法としてICTを活用した。 ・ 県教委事業を活用したICT活用に関する校内研修会、県外視察を実施したほか、各教育部の課題に応じた活用に関する研究を実施した。	B	・ 障害による学習上、生活上の困難を克服・改善するためICTの活用を進めてほしい。	・ 学習指導要領や教育課程に沿った計画的な授業づくりを教職員の協働で行う。 ・ 教科担当や分掌から授業づくりや教材に関する発信を行い共有していく。 ・ 組織での対応を基本に、教職員間のコミュニケーションを重視し、業務を遂行する。
2	・ 進路指導の充実 ・ 生徒主体の授業づくり ・ 家庭、関係機関との連携	・ 生徒の生き方や夢をかなえるための進路指導、将来に関する授業の実践 ・ 生徒の意見を取り入れた行事運営	・ 生徒や保護者の意向を重視した産業現場等における実習の設定、校外での体験学習、外部機関を活用した出前授業を実施した。 ・ 生徒会を中心とし、生徒が活躍できる行事運営を行った。	B	・ 外部専門家を招いての学習を積極的に行ってほしい。 ・ 自立支援機関で行っている、将来の自立に向けた支援プログラムについて紹介する機会をつくってほしい。	・ 行事や実習について、生徒・保護者に事前・事後の流れについて見通しがもてるように説明し実施していく。 ・ 学校から一方的な伝達にならないよう、生徒・保護者の思いを受けとめ、共有する。
3	・ 安全・安心な環境づくり ・ 知肢併置校の特色を生かした教育 ・ 地域資源の活用	・ 津波ハザードマップに対応した避難訓練の実施 ・ 教育部を超えた学習や活動の場の設定 ・ 学校運営協議会を活用した教育活動の展開	・ 津波対応避難訓練についての職員シミュレーションや訓練の部分実施を行い、課題を検討することができた。 ・ 教育部を超えた担当者連携による教科指導や作業学習への参加が実施できた。 ・ ティネイブランド展示や地域活動への参加が定期的に来た。	A	・ 校内の教室等の名称で古めかしいものがある。校内で名称変更してはどうか。 ・ ティネイブランド製品の展示は、継続し、より見てもらえる工夫をしてほしい。 ・ 地域と連携した災害対策を進めてほしい。	・ 知肢併置校に合った安心・安全な学校を目指して、教育部・分掌からあがった要望を総合的に判断して、環境づくりをしていく。 ・ 学校運営協議会委員など外部の意見を参考にしていく。

(11) 総括	・ アンケート結果では、自己評価は4点満点で平均が3.44で概ね良好であるが、昨年度比-0.18となっている。人事異動で職員が入れ替わる中で、職員間の連携・コミュニケーションが課題となっている意見が見られる。保護者アンケートでは、「医療や福祉等との連携」について「わからない」の回答が多く見られ、進路指導に対する自由記述からも、各機関と連携していることを丁寧に伝えていく必要がある。 ・ 教職員間の連携を深めた授業づくりによる「授業の充実」、家庭、関係機関との連携を大切とした「キャリア教育の推進」については次年度の課題として、教育活動の改善と円滑な学校運営に努めていきたい。
---------	---